

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990400137		
法人名	社会福祉法人常盤福祉会		
事業所名	グループホーム万葉 堀米の里		
所在地	栃木県佐野市堀米町1270-6		
自己評価作成日	令和5年9月11日	評価結果市町村受理日	令和5年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様一人ひとりがその有する能力や特性に応じて、個性性を失わずに生活できるよう日々、事業所としてできることはなにかを考えながら運営を行っています。身体的なケアだけでなく、地域社会との結び付きを重視し、お客様が入居後も自宅での生活を継続でき、社会性が保たれるよう地域の医療機関やサービス事業所等と密に連携を図っています。  
令和5年5月8日新型コロナウイルスが5類感染症となって以降は、対面での面会や施設内外の行事を再開し、お客様にとって少しでも有意義な時間が増えるようサービス内容の充実を心掛けております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、堀米駅東口に隣接し、周辺には住宅地や小学校・保育園・公園などの公共施設があり、利便性が良く、閑静な場所に立地している。1階に小規模多機能ホームが併設されているほか、近隣にも特別養護老人ホーム等多くの事業所を運営しており、連携を取りながらよりよいサービスの提供に努めている。日当たりの良い明るくあたたかい雰囲気の中、職員は「感動・満足」という法人理念のもとに、利用者一人ひとりの傾聴に努め、思いに沿った支援をしている。機能訓練にも積極的に取り組んでおり、ほとんどの利用者が訪問リハビリを利用している。モニタリングを細かく実施することで、生活の質の向上に寄与している。家族や職員との関係性も大切にしており、連絡を密にし、意見を表しやすい環境作りに努め、信頼関係を築いている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	令和5年10月12日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「感動・満足」という法人理念のもとお客様本位の生活の提供を目標に、一人ひとりの支援内容を振り返りながら実践に取り組んでいる。	職員は「感動・満足」という法人理念を記載したカードを携帯し、法人の全体会議時等に振り返りをしている。職員は理念を念頭に、利用者一人ひとりが楽しみ、喜びをもって生活できることを大切に支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	これまで法人で実施する夏祭りや事業所単位で開催する行事には、例年、地域住民の方の参加を呼び掛けていた。新型コロナウイルスの流行により施設行事の縮小や地域行事への参加機会が減少しているが、交流再開に向けて検討を重ねている。	コロナ禍以前は、バーベキュー、餅つき等の事業所行事を町会長を通して地域住民に周知して参加してもらったり、近隣の保育園との交流や町内会の敬老会に参加するなどしていた。現在は、筆本のボランティアを受け入れるなど、徐々に地域との交流再開に向けて検討を重ねている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症であっても安心して住み慣れた社会で暮らし続けることができるよう、運営推進会議や地域交流の場を利用して認知症に関するさまざまな話し合いを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍において運営推進会議は紙面開催としていたが、令和5年5月より併設の小規模多機能型居宅介護支援事業所と合同で対面形式での実施を再開している。その中で施設の利用状況や行事報告、参加者からの意見や地域情報の共有を図っている。	利用者家族、町会長、民生委員、消防団員、地域包括支援センター職員等の参加のもと、定期的開催し、意見、要望を運営に反映させている。会議開催日に合わせて避難訓練を実施することとしており、委員から意見を求めるなど、防災意識を高める工夫もしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護保険課担当者とは日頃からサービス利用についての相談や報告等を行っている。地域包括支援センター職員は運営推進会議の委員として、施設の運営や認知症介護について助言を受けられる関係を構築している。	手続き等の訪問時に市担当職員と直接顔を合わせる機会をもち、近況報告を行っている。いつでも相談できる顔なじみの関係となり、連携体制を整えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、法人内の他グループホームと併設の小規模多機能居宅介護支援事業所と3事業所合同で身体安全委員会を開催し、身体拘束に当たる行為や不適切ケアの確認や事例検討を行っている。また、報告書を作成し、実施内容を全職員へ共有している。	転倒の恐れのある利用者にはセンサーマットを使用するなど、身体拘束なく見守りできる体制を整えている。勉強会を開催し、身体拘束、権利侵害に係る内容を学び、スピーチロックにならないよう確認したり職員間でも互いに声を掛け合うなど、意識の統一に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修において高齢者虐待防止法に触れ、自身のケアの振り返りを行うとともに虐待の予防と早期発見に努めている。		

グループホーム万葉堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身体安全委員会の職員が主催して、定期的に法人内で勉強会を開催している。また、権利擁護に関する外部での研修にも積極的に参加し、必要があればお客様に対して適切な提案ができるよう知識の獲得に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約書、重要事項説明書等を用い内容についてお客様本人と家族へ説明、同意を得ている。変更が生じた際には書面にて同意を得る他、疑問点があればその都度回答を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス担当者会議や運営推進会議で挙げられた意見については、速やかに事業所内で検討し、サービスの改善と向上の一助としている。	家族には事業所便りで生活の様子について知らせているほか、面会や定期受診での来所時には、直接顔を合わせて話す機会を設けている。利用者の近況を伝え、意見、要望を聞き取り、運営に反映させている。利用者には、日頃の支援の中で丁寧に傾聴し、意見をケアプランに組み込むなどしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回はユニット内で会議を開催し、施設運営上の意見を述べられる場をもうけている。また、必要に応じては個別面談の機会を作っており、個性にも配慮している。	管理者は、職員が長く落ち着いて働ける環境が、事業所の質の向上を図る上で大切であると考え、意見を表しやすく風通しの良い環境作りに努めている。ユニット会議内で出されたケアに関する意見やイベントの提案に対して速やかな対応に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から就業環境の整理整頓を実施するほか、法人が規定した勤怠管理等を通じ、職員一人ひとりがやりがいや向上心を持って継続的に働ける環境づくりを目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人スキルの向上のために社外、社内研修への参加を積極的に促している。その他には、個人の技量に応じて上長との個別面談を実施することで仕事の習熟度ごとの目標設定や助言を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	対面、非対面問わず外部の研修や勉強会への参加を積極的に促し、自己分析や自己研鑽の機会としている。		

グループホーム万葉堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症のあるお客様自身が意向を述べられなかったとしても、アセスメントの内容からニーズを推察して言語化することで本人の意向を皆で共有する取り組みを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテーク面談では来談者である家族の気持ちに寄り添いながら、事業所として提供できるサービスで抱えている課題を解消することができるかを客観的な視点で説明することで、家族と建設的な関係を構築することに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを根拠に導かれたニーズの解消に必要なサービス内容を検討し、フォーマル・インフォーマルの違いに係わらず、本人、家族にとって最大限の利益が得られる支援の提案を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	パーソンセンタードケアの視点から本人の生活歴や培ってきた価値観を重視しながら、どのような状況においても本人中心の自立支援の展開を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も支援者の一員ととらえ、お客様の日々の様子や生活状況の報告を行いながら、家族独自の視点から助言や意見をいただき支援を実践している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設での暮らしがお客様の生活歴や生活習慣とかけ離れたものにならないよう、家族をはじめとした他者交流や社会との触れ合いの機会を大切にしている。	利用開始時に、過去の生活歴を丁寧に聞きとり、農作業、将棋など、利用者がこれまで大切にしてきた趣味や習慣を継続できるよう支援している。墓参り、法事等の外出や、面会、手紙のやりとり等、馴染みの人、場所との関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活を送るお客様同士の関係性に着目しながら、一人ひとりが穏やかな日常生活を営めるよう居室や座席の配置に配慮し支援している。		

グループホーム万葉堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば契約終了後もお客様やご家族と連絡をとり、その状況に応じた相談支援やアフターフォローを実践している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様やご家族へ定期的に意向を伺いながら、サービスの適性と満足度の確認を行っている。	日頃から利用者の表情、仕草を丁寧に観察しながら、傾聴に努めている。言葉での意思表示が難しい利用者には、生活歴を参考に推し量ったり、二者択一で選択してもらうなど、工夫しながら思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク面談の際には生活歴のほかに介護サービスの利用経過等を聞き取ることで、施設でも慣れ親しんだ暮らしが継続できるよう配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の記録から個人の特性や変化を観察点として、月に1回はモニタリングを実施し、サービスが適切に提供され、課題が解決されているか評価している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	お客様本人はもとよりご家族や主治医、介護職員からの意見を取り入れながら多角的なケアプランの作成に努めている。	計画作成者を中心に、毎月の会議の中で利用者の変化を報告し合い、ケアの方向性を話し合っている。理学療法士による訪問リハビリが可能となっており、ほとんどの利用者が利用している。定期的なモニタリングにより、適切なタイミングで計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の単純な記録にならないよう認知症の主症状及び周辺症状の様子や認知症ケアの実践とその後の結果を記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自事業所のサービスに固執することで生じる閉塞感を打破するためにフォーマル、インフォーマルを問わず多様なサービスの導入を常に考えている。		

グループホーム万葉堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動販売での買い物や商業施設への外出など社会資源を有効活用しながら、意欲的に生活が送れるような取り組みを実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	疾患に対して適切な治療や病状の管理が受けられるよう、お客様本人やご家族と相談しながら専門医への受診を勧めている。	家族付き添いのもと、利用前からのかかりつけ医の受診を基本としている。薬局で行う服薬指導に職員が同席して適切な服薬管理に繋げたり、定期受診時には家族に利用者の様子を記した手紙を渡すなど、適切な医療受診を支援している。併設する小規模多機能ホームには看護師が2名配置されており、緊急時には相談したり指示を仰ぐ体制も整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルチェックを行いながら健康状態の情報を数値として記録する他に、併設の小規模多機能型居宅介護の看護とも連携しながら必要際には速やかに医療機関につなげられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には速やかに入退院共通連携シートを作成し、医療機関へ送付することで介護と医療の連携が十分に図れるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナル期においては、ACPを十分に重ねることでお客様本人やご家族の意向やケアの方向性が定まり、協働の体制を整えることが重要だと考えている。	利用開始時に、事業所でできること、できないことを説明し、医療介入の必要性など利用者の状態変化に合わせて話し合いの場を設けている。同法人の運営する特別養護老人ホームとの連携により、住み替えの支援も行っているが、体制が整えば事業所で看取りまで実施することも考えている。	法人の看取りの指針や他事業所の体制を参考にしながら、勉強会等で職員の知識、理解を深めるなど、看取りの実施体制の構築にむけた取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に速やかな救護行動がとれるようにマニュアルを用意し、職員に周知を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は併設の小規模多機能型居宅介護と合同で年2回実施している。運営推進会議では、災害発生時に施設が地域社会で果たせる役割の確認を行っている。	火災、水害、夜間等、様々な状況を想定した避難・消火訓練を実施している。今後、LINEを活用して有事の連絡体制を整えることも検討している。厨房に水、缶詰等3日分の備蓄を確保し、定期的に確認している。	年2回の法定訓練の他に、さらなる防災意識の向上のために図上訓練等を実施したり、地域住民に避難誘導、見守り等の協力が得られるような働きかけに期待したい。

グループホーム万葉堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を保持するために、人格や自尊心に配慮した節度ある声掛けを徹底している。	利用者の呼び方は、姓に「さん」付けを基本とし、馴れ合いにならないように心がけている。勉強会等で自身のケアを振り返りながら、不快感を与えない丁寧な言葉かけにより、人権の尊重に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	能力に合わせた自己決定ができるよう個人の状態に合わせて、係わり方変化させながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1つの日課でも決まりきった時間に行うのではなく、個人のペースに合わせる形で時間に幅を持たせながらゆとりのあるスケジュールで生活していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	例えば1日中寝間着で過ごすといったようなことがないように、身だしなみを整えることで生活にメリハリがつけられるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの希望に沿いながら可能な範囲で食事の準備、片付けに参加していただいている。お客様と職員と一緒に調理する行事を開催している。	外部の委託給食を利用し、厨房専門の職員がごはん、汁物の準備の他、刻み食やおかゆ等、食形態の管理を行っている。利用者の能力に応じて、下膳や皿洗いを手伝ってもらったり、おやつ作りや出前を取り入れるなど、食を楽しめる機会を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量を毎食記録し、必要に応じて食形態を変更し、提供している。医師からの指示により塩分や水分量の制限を実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にブラッシングや義歯洗浄による口腔ケアを行い、口腔内衛生の保持に努めている。必要に応じて訪問歯科診療を提案している。		



グループホーム万葉堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁を減らすため個々の排泄周期を把握し、声掛け誘導を行いながらトイレでの排泄が実現できるよう支援を行っている。	排泄チェック表により利用者一人ひとりの排泄周期を把握するとともに、仕草や様子をよく観察しながら、声かけ誘導している。排泄の問題が不穏につながることに留意し、可能な限りトイレでの自立した排泄にむけて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	制限がなければ1日1000cc以上の水分摂取を目標に声掛け促しを行っている。また、内服に頼らず自然排便ができるよう日常的な運動を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お客様一人一人の体調や気持ちを考慮しながら曜日や時間帯を固定せずに入浴の介助を実施している。	週2回、1対1の同性介助を基本として、時間帯を固定せず利用者のタイミングで入浴できるよう支援している。一人ひとり湯を入れ替え、適切な暖房管理によりヒートショックを予防したり、クリームで肌の保湿に気を配ったりと、気持ち良く入浴できる環境を整えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	週1回以上はリネン交換を行い清潔な状態で入眠できる環境を整えている。就寝時間や居室内の環境は個々の慣れ親しんだ生活習慣に近い形で提供を行うよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の目的、効能、副作用、用量について情報書類を保管し、随時確認している。受診時には医師へ生活状況を伝達し、病状管理について連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	慣れ親しんだ趣味や関心事に継続して取り組めるよう物品の管理や手法の提案を行っている。屋外を散歩したり、家事参加したりと役割のある暮らしの獲得を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	屋外へ出ることで感じることができる季節の移ろいや地域社会の変化を感じていただくために事業所として積極的に外出支援を行うとともに、ご家族との外出機会も持たせていただいている。	法人の敷地内を散歩するなど、日常的に戸外に出る機会を作るとともに、月に1回は外出できるように企画し、道の駅、あじさい見学、少人数でのドライブ等を実施している。買い物に出かけて、自ら支払いをする行為を大切な社会活動の一つと捉え、社会性を継続できるよう支援している。	



グループホーム万葉堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	訪問販売や外出先での買い物ができるように預り金という形で、お客様一人ひとりの能力に応じて金銭管理を行っている。物を買うという社会活動を通じて、IADLの自立支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りなど自由に行っていたきながら、希望があれば携帯電話を持ち込み使用することもできる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お客様に快適に生活していただけるようリビングは日当たりを良くし、毎日清掃を行いながら清潔な環境を整えている。コロナ禍においては、定時で換気をして感染予防対策を講じている。空調設備を利用し、室温や湿度の調整にも配慮している。トイレの臭いがリビングに流れないように消臭剤を設置している。	リビングは南側に面し、日当たりが良く、専門のスタッフが清掃を行い、清潔な空間を保っている。利用者が思い思いの場所で過ごせるよう、ソファやテーブルの配置を工夫している。季節の飾りを施し季節感を演出しているほか、温湿度計により適切な空調管理にも努めている。また、不快な臭いがないよう特に注意を払っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内に数ヶ所は椅子やソファを配置し、お客様の気分に合わせて居場所を変えることができたり、気の合う仲間と交流することができる工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物や飾り物を自由に持ち込んでいただきながら、なじみの居室空間が作れるようご家族にも協力していただきながら環境を整えている。	エアコン、洗面台、タンス、ベッドが備え付けられ、家族の協力のもと、写真、絵画、布団等を自由に持ち込んでもらっている。慣れ親しんだ生活環境に近づけるよう配慮し、心の安定につながる居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の場所が分かりにくい場合には、目線の高さに見やすい書式で掲示をして、お客様ができるだけ一人でも自立した生活が送れるよう工夫をしている。		